

資料・統計

2003年中央手術部手術統計

Annual Report of Operations in 2003

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 外科							
外来手術		47	非切除	1	単開腹	0	
甲状腺・副甲状腺		0	再発	5	バイパス	0	
乳腺					その他	1	
良性	6				肝転移切除	0	
乳癌	306				リンパ節郭清	2	
		胸筋温存乳房切除術	47	イレウス	1	局所切除	1
		乳房全切除+センチネルリンパ節生検	20			卵摘	0
		単純乳房切除術	11			人工肛門	2
		乳房部分切除+腋窩リンパ節郭清	86			腸切除	0
		乳房部分切除+センチネルリンパ節生検	104			バイパス	0
		乳房部分切除	40			癒着剥離	1
その他	29			非上皮性腫瘍	13	人工肛門造設	0
食道						胃ろう・空腸ろう	0
良性	0					GIST	13
非上皮性腫瘍	0					悪性リンパ腫	0
食道癌	21					その他	0
		右開胸	20	潰瘍			1
		左開胸	0	その他			0
		遊離空腸移植	0				
		食道抜去	1	結腸, 直腸	230		
胃	316			原発	176		
胃癌	295			結腸悪性	122	右半結腸切除	41
非手術	17					S状結腸切除	34
Staging laparoscopy	8					結腸部分切除	14
切除	277					右結腸切除	8
		全摘	57			横行結腸切除	8
		残胃全摘	7			左半結腸切除	5
		噴門側切除	9			下行結腸切除術	3
		幽門側切除	149			回盲部切除術	3
		PPG, 分節切除	34			亜全摘	0
		臍頭十二指腸切除術	3			非切除	6
		EMR	0			人工肛門	4
		SLR	17			バイパス	2
		腹腔鏡下部分切除	0	結腸良性	1		
		腹腔鏡下幽門側切除	1	直腸悪性	53	低位前方切除	25
						前方切除術	10
						直腸切断術	10
						経肛門的切除	5
						ハルトマン手術	3

	骨盤内蔵全摘術	0	
	非切除	0	
直腸良性再発	0	21	
	肝切除	10	
	低位前方切除術	3	
	直腸切断術	1	
	骨盤内蔵全摘術	1	
	卵巣摘出術	1	
	肝動注	1	
	人工肛門	3	
	バイパス	1	
肝転移	14 (上記原発再発症例に含まれる)		
	異時	10	(上記再発症例に含まれる)
	同時	4	(上記原発症例に含まれる)
その他の手術		29	(内緊急手術 6)
	他科癌・他癌	10	
	低位前方切除術	3	
	結腸部分切除術	2	
	肝切除	1	
	その他	4	
	腹膜炎手術	4	
	人工肛門造設術	4	
	瘻孔切除再縫合術	3	
	人工肛門閉鎖術	2	
	腹壁癒痕ヘルニア	2	
	腸閉塞手術	1	
	ベーチェット病	1	
	その他	6	
肝胆膵	131		
		切除	非切除
膵臓癌	32		
	膵頭部癌	18	4
	膵体尾部癌	2	4
	IPMT	3	
	MCT	0	
	再発	0	1
肝臓癌	16		
	肝細胞癌	6	1
	胆管細胞癌	1	0
	転移性肝癌	7	1
胆道癌	25		
	胆管癌	7	1
	胆嚢癌	6	5
	再発	0	2
	十二指腸乳頭部癌	4	0
十二指腸癌	0	0	0
	小腸腫瘍	0	
その他	58		
	肝良性腫瘍	3	
	胆嚢ポリープ	2	
	胆石症・総胆管結石症	18	
	その他	35	

2003年の外科手術は入院1052件、外来47件で2002年と比べ入院が156件増加し、外来は1件減少した。各臓器別手術件数は乳腺361件、食道21件、胃316件、肝胆膵131件、直腸・結腸230件その他40件であった。乳癌ではMastectomyが減少し、乳房温存手術が75%と増加した。食道手術は2件減少した。胃癌手術は295件で36件と著明に増加し、幽門側切除・PPG・分節切除が増加し、全摘が減少した。腹腔鏡手術は補助下の切除が1件のみでstaging laparoscopyが8件と多かった。結腸・直腸手術は30件増加したが原発性の結腸・直腸癌手術と再発手術も増加したことによる。肝胆膵は1件の減少であった。肝癌の手術が減少し、胆道癌手術が増加した。クリニカルパスの運用と縮小種手術の増加により術後入院日数の短縮したことにより手術件数が増加していると考えられる。(文責 土屋義昭)

2. 呼吸器外科

1	気管(支)疾患	2
	気管切開	2
2	肺疾患	244
	2-1 良性肺疾患	14
	嚢胞性肺疾患	2
	炎症性肺疾患	8(2)
	良性肺腫瘍	3(2)
	肺分画症	1
	2-2 悪性腫瘍	230
	2-2-1 原発性肺癌	191
	全摘除	4
	肺葉切除	133(1)
	区域切除	18
	部分切除	25(5)
	再発肺癌	5
	試験開胸	5
	審査開胸	1
	2-2-2 転移性肺腫瘍	39
	結腸・直腸癌肺転移	29(5)
	骨軟部腫瘍肺転移	2
	腎癌肺転移	2(1)
	婦人科疾患肺転移	2
	胃がん肺転移	2
	その他	2(1)
3	縦隔疾患	17
	3-1 縦隔腫瘍	14
	胸腺腫	6(3)
	胚細胞腫瘍	1
	奇形腫	2(2)
	その他	5(3)
	3-2 縦隔鏡検査	2

3-3 ドレナージ	1
4 胸膜疾患	11
気胸	8(7)
膿胸	3

5 胸壁疾患	4
--------	---

() : 胸腔鏡下手術

2003年の全麻手術数は278で、2002年の286とほぼ同等であった。肺癌は191で再発肺癌5と審査開胸1を除き、切除の対象となった原発性肺癌は185例であった。本年はStage IA腺癌症例を対象として術前HRCT所見と肺葉切除後の病理学的浸潤度を対比するJCOGの臨床試験に参加していたことから、施設単独で行っていた縮小手術の第Ⅱ相試験に登録されるべき区域切除の比率が例年に比較し低率となった。

転移性肺腫瘍39, 悪性縦隔腫瘍10と悪性疾患は計240例で、全手術症例に占める悪性疾患の比率は86%であった。(文責 小池輝明)

3. 整形外科

腫瘍性疾患統計 168	
良性軟部腫瘍	
切除術	89
切除術+皮弁	1
良性骨腫瘍	
生検のみ	3
切除術	9
搔爬+骨移植	3
小計	105

悪性軟部腫瘍	
広範切除	5
広範切除+筋皮弁等の再建術	8
生検術	9
小計	22

悪性骨腫瘍	
広範切除	2
広範切除+人工関節など再建術	2
生検術	5
小計	9

脊髄腫瘍	7
------	---

転移性腫瘍	
脊椎	
椎弓切除+後方固定	6

腫瘍切除+前方固定	2
除圧 腫瘍切除	2
転移性骨盤腫瘍	1
四肢転移性腫瘍	13
胸壁転移性腫瘍	1

小計	25
----	----

脊椎疾患	
非腫瘍性疾患	
ラブ法	16
椎弓切除	4
後方除圧+固定	9
前方固定	1
頸椎後方拡大術	5
脊椎短縮術	1
小計	36

股関節疾患	
人工関節置換術	18
人工関節再置換術	4
人工骨頭置換術	4
外反骨切り術	1
滑膜切除	1
脱臼整復	1
小計	29

膝関節疾患	
人工関節置換術	27
人工関節再置換術	2
高位脛骨骨切り術	1
靭帯再建術	5
半月板切除	11
滑膜切除	9
小計	55

肩関節疾患	
腱板縫合	2
滑膜切除	1
小計	3

肘手関節疾患	
腱鞘切開	22
手根管開放	7
滑膜切除	9
腱移行・腱移植	2
関節固定	2
尺骨短縮骨切り	1
デュプイトレン拘縮手術	3
靭帯再建	3
尺骨動脈瘤切除・血管吻合	1
小計	50

足・足関節疾患	
外反母趾矯正骨切り	3
陥入爪	2
関節形成術	2
遊離体摘出	3

小計 10

その他	
骨接合術	19
抜釘	20
デブリードマン	35
異物除去	1
感染・壊疽による切断	2
筋皮弁	2

小計 79

2003年 合計430

合計に対する腫瘍性疾患の比率は39.1%であった。そのうち良性腫瘍62.5%, 悪性腫瘍18.4%, 転移性腫瘍14.8%, 脊髄腫瘍4.1%であった。腫瘍性疾患数は例年並であった。人工関節手術が昨年に引き続き増加した。(畠野宏史)

4. 脳外科

1. 脳腫瘍	
脳腫瘍摘出術	53
シャント	7
その他	8
2. 脳血管障害	
血腫除去術	5
その他	1
3. 頭部外傷	
血腫除去術	10
4. その他	0

計 84

脳腫瘍摘出術は過去最多となり、分野別の専門化が進んでいる印象である。

(文責 吉田誠一)

5. 産婦人科手術統計

腹式子宮全摘術 (+ 附属器切除術など)	85
子宮筋腫	52
子宮腺筋症	5
子宮頸部異形成	7
子宮頸癌	0 期 10
	I a 期 4

良性卵巢腫瘍	5
子宮留膿腫	1
過多月経・貧血	1

腔式子宮全摘術	7
子宮頸癌	0 期 5
子宮頸部異形成	1
子宮筋腫	1

腹式子宮全摘術 (+ 附属器切除術) + 骨盤リンパ節廓清術 (+ 傍大動脈リンパ節生検・郭清術)	
子宮体癌	26
	I a 期 2
	I b 期 8
	I c 期 5
	II b 期 1
	III a 期 4
	III c 期 3
	IV b 期 2

準広汎子宮全摘術	7
子宮頸癌	I a 1 期 6
膣癌	1

広汎子宮全摘術	24
子宮頸癌	I b 1 期 7
	I b 2 期 8
	II a 期 2
	II b 期 6
膣癌	1

卵巢悪性腫瘍 (境界悪性腫瘍を含む) 手術	23
	I a 期 2
	I c 期 5
	II b 期 1
	II c 期 4
	III c 期 4
	IV 期 5
	転移性 1

SLO (Second Look Operation)	1
卵管癌	1

子宮頸部円錐切除術	67
子宮頸部異形成	26
子宮頸癌	0 期 27
	I a 1 期 7
	I b 期 2
子宮頸癌疑い	3
肺癌子宮転移	1

LEEP	15
子宮頸部異形成	10
子宮頸癌	0 期 5

その他の悪性腫瘍手術	12
腺癌	2
外陰Paget病	2
試験開腹	5
CINレーザー蒸散	1
再発腫瘍摘出	2
付属器切除術（付属器腫瘍摘出術を含む）	63
子宮筋腫核出術	28
子宮脱・腔脱・膀胱脱・直腸脱手術	19
腔式子宮全摘術＋前腔壁形成術	1
腔式子宮全摘術＋前腔壁形成術＋後腔壁形成術	7
マンチェスター手術	1
中央腔閉鎖術	6
Richardson Williams手術	1
腹腔鏡手術	21
良性卵巣腫瘍	12
乳癌術後	7
子宮外妊娠	1
悪性卵巣腫瘍	1
経頸管的切除（TCR）	5
子宮筋腫	2
子宮腺筋症	1
子宮内膜ポリープ	2
帝王切開術（予定帝切6例，緊急帝切5例）	11
前回帝切	4
胎児仮死	5
骨盤位	2
子宮内容除去術	15
不全流産	2
稽留流産	4
子宮内容遺残	1
子宮内膜増殖症	1
子宮体癌（疑い）	2
胞状奇胎	2(4)
人工妊娠中絶	1
その他良性疾患に対する手術	
卵管切除術（子宮外妊娠）	4
IUD抜去術	2
バルトリン腺嚢腫・膿瘍造袋術	5
外陰形成術	1
直腸腔瘻閉鎖術	1
鼠径リンパ節生検	1
腹腔内異物摘出	1
計	457

2003年の産婦人科手術は457例であり、前年に比べて25例増加した。悪性腫瘍のうち子宮頸癌は、頸部円錐切除術67例，LEEP5例，準広汎子宮全摘術7例，広汎子宮全摘術23例といずれも増加しているが，特に円錐切除術の増加が著しい。子宮体癌（新規）に対する開腹手術は，昨年16例から26例と増加したが，昨年が例年になく少なかったためと思われる。今後はこの疾患の増加が予想される。

昨年は腹腔鏡下手術が大幅に増加したが，本年はやや減少している。子宮鏡も含め鏡視下手術は今後増加していくものと思われるが，手術時間が長くなりがちであること，特殊器具の手配などのスケジュール調整が問題となりつつある。

本年から行われている手術にLEEP (loop electro-surgical excision procedure)がある。子宮頸部の異型上皮に用いられるが，低侵襲のため局所麻酔での手術が可能であり，将来的には外来手術としての運用も期待される。なお，2003年の分娩数は100件で，帝王切開率は11/100=11%と，近年の増加傾向に歯止めがかかった形となった。

(文責：富田 雅俊)

6. 泌尿器科

表1. 悪性腫瘍に対する手術

1. 後腹膜・副腎	(3)
副腎転移（腹腔鏡下 1）	2
後腹膜リンパ節郭清術	1
2. 腎細胞癌	(46)
根治的腎摘出術（腹腔鏡 1）	27
部分切除・腫瘍核出	18
臍尾部切除，脾摘	1
3. 腎盂尿管癌	(31)
腎尿管全摘除術	29
尿管部分切除	2
4. 膀胱癌	(186)
根治的膀胱全摘除術	14
TUR-Bt（生検を含む）	171
経直腸腹腔穿刺細胞診	1
5. 前立腺癌	(457)
根治的前立腺全摘除術	49
針生検（疑いを含む）	394
TUR-PCa	1
去勢術	13
6. 精巣腫瘍	(13)
高位精巣摘除	13
7. 陰茎癌	(3)
陰茎部分切除	3
8. その他	(1)
骨盤臓器全摘，回腸導管	1
小計	(740)

表 2. 良性腫瘍に対する手術

1. 副腎腫瘍	
副腎摘除術	1
腹腔鏡下副腎摘除術	1
2. 後腹膜腫瘍 摘除 (腹腔鏡下 1)	2
3. 腎切除	2
4. 前立腺肥大症TUR-P	26
皮膜下摘出	1
<hr/>	
小計	(33)

表 3. 腫瘍以外の手術

1. 腎臓	
腎摘除術	2
経皮的腎瘻造設術 (原因疾患は良悪を含む)	15
腎生検	1
腎嚢胞穿刺	1
2. 尿管	
尿管カテーテル (原因疾患は良悪を含む) (カテーテル留置を含む)	49
尿管鏡	2
尿管尿管吻合 (他科手術と併施)	1
尿管拡張	1
3. 膀胱	
膀胱尿管逆流防止手術	1
膀胱尿管新吻合 (尿管膹ろう)	1
経尿道的膀胱碎石	3
膀胱ろう造設	4
膀胱内血腫除去	1
4. 尿道	
内尿道切開 (尿道狭窄)	7
尿道憩室切除	1
尿道周囲膿瘍排膿	1
5. 陰囊・精巣	
陰囊水腫手術	2
精巣上体摘出	1
6. 陰茎	
包茎手術	1
コンジローマ切除	1
7. その他	
鼠径リンパ節生検	1
創再縫合, ドレナージ	1
<hr/>	
小計	(98)
合計	871

2003年の泌尿器科手術, 延べ826名, 871件の集計を行なった。手術件数が著明に増加している。同一症例で複数回, 複数箇所の手術をしている場合があり, これらはそれぞれ1件として表記した。悪性腫瘍の手術の項には生検を含み, その他の手術にも多

くの癌患者を含むため, 悪性疾患患者の実数を表してはいない。極めて有用な腫瘍マーカー PSAの普及により, 前立腺生検の件数が年々増加し, 根治的前立腺摘除術の適応となる患者も増加が著しい。

(文責 小松原秀一)

7. 皮膚科手術統計

【悪性腫瘍】

悪性黒色腫	20
基底細胞癌	34
有棘細胞癌	15
ボーエン病	24
日光角化症	9
外陰パジェット病	6
皮膚付属器癌	2
悪性軟部腫瘍	2
悪性リンパ腫	4
転移性皮膚癌	2
<hr/>	
小計	128

【良性腫瘍・その他】

母斑細胞母斑	96
表皮嚢腫 (粉瘤)	91
脂漏性角化症	41
脂肪腫	38
皮膚線維腫・軟線維腫	23
脂腺母斑・青色母斑	12
良性皮膚付属器腫瘍	8
血管腫	8
ケラトアカントーマ	10
石灰化上皮腫	17
化膿性肉芽腫	7
慢性膿皮症	2
毛嚢洞	6
神経線維腫	7
その他	75
<hr/>	
小計	441

昨年に比べ手術件数は全体に微増していた。悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検は, 所属リンパ節郭清の適応を決める上での標準手技として確立してきており, 有棘細胞癌や外陰パジェット病などの他の皮膚癌にも適用を拡大している。2003年には11例に施行した。

また, 近年の人口高齢化を反映して, 当院での皮膚癌患者に占める70歳以上高齢者の割合は1989年の45%から2003年には67%にまで増加した。合併症等の問題で十分な手術治療が行えないケースが多く,

治療法の選択に難渋している。

(文責 竹之内辰也)

8. 眼科

白内障	超音波水晶体乳化解吸引術+人工レンズ挿入術	127
	計画的嚢外摘出術+人工レンズ挿入術	27
	人工レンズ挿入術	1
	人工レンズ毛様溝固定	1
	水晶体前房内脱臼 嚢内摘出術	1
緑内障	線維柱帯切除術	3
	白内障, 緑内障同時手術	3
	(線維柱帯切除術+嚢内摘出術) (1)	
	(線維柱帯切除術+超音波水晶体乳化解吸引術+人工レンズ挿入術) (1)	
	(線維柱帯切除術+嚢内摘出術+人工レンズ毛様溝逢着術) (1)	
	虹彩切除	1
内反症	Hotz氏法	2
眼瞼腫瘍	摘出術	4
結膜腫瘍	摘出術	2
翼状片	切除術兼結膜弁移動	2
眼窩内腫瘍	Kroenlein手術	1
ドライアイ	涙点閉鎖術	2
角膜異物	角膜異物除去	1
外斜視	内直筋前転	1
計		177

昨年と比較しても特に手術件数及びその内容に大きな変化はみられなかった。

(文責 難波克彦)

9. 耳鼻咽喉科

(1) 悪性腫瘍に対する手術	94
<hr/>	
1. 舌・口腔	10
部分切除	4
切除+再建	6
2. 鼻副鼻腔	4
腫瘍切除	3
上顎部切	1
3. 中・下咽頭	1
切除+再建	1
4. 喉頭	15
レーザー手術	5

全摘	9
全摘+再建	1
5. 甲状腺	44
葉切除	35
亜全摘	3
全摘	6
6. 頸部	18
転移性リンパ節切除	4
頸部郭清	14
7. 唾液腺	2
顎下腺腫瘍切除	2
(2) 良性疾患に対する手術	59
<hr/>	
1. 口腔・口唇腫瘍切除	5
2. 咽頭腫瘍切除	4
3. 鼻副鼻腔	2
鼻茸切除	1
鼻腔腫瘍切除	1
4. 喉頭	13
声帯ポリープ・結節切除	9
肉芽腫・嚢胞切除	4
5. 甲状腺	8
葉切除	7
全摘(パセドー病)	1
6. 唾液腺	15
顎下腺摘出	2
耳下腺部分切除	13
7. 副甲状腺腫瘍摘出	2
8. 顔面頸部腫瘍摘出	7
9. その他	3
(3) その他	84
<hr/>	
1. 生検	71
口腔	1
鼻副鼻腔	4
咽頭	7
喉頭	40
甲状腺	1
頸部リンパ節	17
唾液腺	1
2. 気管切開	12
3. 食道ブジー	1

悪性, 良性腫瘍ともに総数の変動はほとんどなかった。再建を要する切除術がやや多く, 特に舌・口腔症例が目立った。甲状腺手術は相変わらず多数であった。
(文責 長谷川聡)